

ユビキタス時代の情報基盤技術論文特集の発行にあたって



ユビキタス時代の情報基盤技術論文特集編集委員会

委員長 雨宮 真人

ユビキタス情報社会という言葉が次第に定着してきており、情報は私たちの生活に切り離せないものとなっている。その情報を伝達し処理するための技術基盤としてコンピュータは重要な役割を担っている。ユビキタス情報環境は今後更に発展していくと予想され、これを支えるコンピュータシステムやソフトウェアの技術はますます重要なものとなる。

これら重要な基盤技術に関して発表・討論する場として、本会 情報・システムソサイエティ (ISS)、ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)、及び情報処理学会が主催する「情報技術フォーラム (FIT)」が毎年開催されている。

このFITの機会をとらえて、本会和文論文誌Dと情報処理学会論文誌が毎年交互にFIT特集号を企画し、FITで発表された研究及びそれらを更に発展させたものあるいは関連する研究論文を募集してFIT特集号を編集することとした。その趣旨は、FIT特集号を毎年企画することによってFITがより充実した研究発表及び討論を行う場として盛会になり、またFITで発表された研究が更にインパクトを与える研究へと発展していくことを促進することにある。

昨年度はその第1回目として情報処理学会論文誌に特集号が組まれた。

今回は本会和文論文誌Dにおいて、「ユビキタス時

代の情報基盤技術」というテーマで、下記に示すメンバーで編集委員会を構成して特集号を企画した。特にコンピュータのハードウェアとソフトウェアに係る基盤技術に関する研究で、FIT2006で発表された研究及びそれらを発展させたものあるいは関連する研究を中心としてそのシーズを掘り起こすことを目標とした。その結果、本特集では、ハードウェア関連で2編、ソフトウェア関連で3編、サービス関連で2編、合計7編の論文を採録した。

本特集の編集にあたっては、できるだけ早く論文を集めて特集号を出すということでスケジュール的にあまり余裕がなく、湯浅太一副委員長、伊藤彰則、馬場敬信両幹事はじめ編集委員の方々には大変なお骨折りを頂いた。また査読委員の方々には通常より短い時間で査読をお願いした。ここに感謝申し上げる次第である。

あまみや まこと
雨宮 真人 (正員：フェロー) 1967九大・工・電子卒。1969同大大学院工学研究科修士課程了。同年日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所入所。以来、プログラミング言語・処理系、自然言語理解、データフロー・アーキテクチャ、並列分散処理、関数型/論理型言語、知能処理アーキテクチャ、マルチエージェントシステム等の研究に従事。現在、九州大学大学院システム情報科学研究所知能システム学部門教授。ソフトウェア科学会、人工知能学会、IEEE、ACM、AAAI各会員。情報処理学会フェロー。工博。

ユビキタス時代の情報基盤技術論文特集編集委員会

委員長	雨宮 真人
副委員長	湯浅 太一
幹事	馬場 敬信・伊藤 彰則
委員	小柴 健史・菱山 玲子・緑川 博子・渡部 卓雄 山口 高平・久我 守弘・井上 美智子